



2019 5 令和元年

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性課へ

発行 ● 狛江市地域活性課
〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5
☎3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3
ル・ミリオン・イイダ3階A号
☎3430-6617 FAX3430-6743

子どもの健全育成に重点



市民柔道大会

狛江市柔道クラブ

狛江市柔道クラブ(池田悦雄会長)は柔道を通じて会員同士の親睦を深め、体力向上と心身の練磨、人格形成を図ることなどを目的に活動している。

昭和52年の上和泉地域センター開館を機に、青少年の健全育成を目的とし

て「上和泉柔道クラブ」の名称で創立。60年に現在の名称に改め、狛江市体育協会に加盟した。

現在、青少年や一般、指導者も含め約60人が所属し、狛江市民総合体育館で週2回の割合で稽古をしている。会員の多くは小・中学生だが、なかには子どもの稽古を見学するうちに柔道を始めて入会する保護者もあり、親子の関係が深まって喜んでいっている。

指導しているのは、子ども時代に同クラブに通った有段者や池田会長の知人の元日本代表選手など約10人。事故を防ぐため、受け身など基本動作をしっかり身に付けることを大切にしており、体幹を鍛えるための運動も採り入

れている。このほか、会員の昇級・昇段審査も行う。

2月に警視庁の各少年柔道クラブや近隣の柔道会なども含め小・中学生を対象に100人以上が参加する市民柔道大会を開催するほか、調布市、世田谷区、北区など市外の柔道大会へ積極的に参加している。調布警察署の武道道場に参加したり、鏡開き式、寒稽古、暑中稽古などを開催している。

現役時代はインターハイ優勝、金鷲旗高校柔道大会2連覇、全日本学生柔道優勝大会などに出場、7段の段位を持つ池田会長は「礼節を中心に子どもたちの心身の鍛練と柔道の普及がクラブの主な目的です。ここで柔道の楽しさを知ったOBの多くが子どもたちの指導に来てくれているのが喜びです」と話している。

問い合わせ ☎3480-4673 池田さん。

スポーツ振興めざし活動

狛江市スポーツ推進委員(田村隆一会長)は市内のスポーツ関係者12人が委員となり、スポーツ振興を目的として、市民に対して指導や助言を行うとともにさまざまな事業に取り組み、青少年の健全育成、体力向上につながる活動をしている。

かつては狛江市体育指導員という名称だったが、スポーツ基本法の施行に伴い平成23年に現在の名称に変わった。

委員は、成人や青少年を対象としたバドミントン、バスケットボール、ビーチボール、卓球、フットサル、タグラグビー、綱引き、吹矢などさまざまなスポーツ教室を催したり、体力測定などを行う市民スポーツデー、青少年綱引き大会の運営や障がい者スポーツの普及に積極的に取り組んでいる。

また、狛江市体育協会や狛江市総合型スポーツ・文化クラブ狛江と連携し、年



ボッチャの講習会

スポーツ推進委員

間10数回の教室やイベントを通して市民の体力向上につながる活動をしている。

委員のうち8人を女性が占めているのが特徴。委員は事業ごとに担当を決め、その競技を指導できるように努めており、委員同士が連携して研修に励んでいる。

田村会長は「子どもの体力は、スポーツをする子としない子の2極化が見られるので、スポーツをしない子に参加してもらえるような事業を開催したい。市民スポーツデーにも、親子で参加して自分の体力年齢を知り、体力管理の目標を立てるようなきっかけにしてほしい」と話している。

問い合わせ ☎3430-1111 狛江市教育委員会社会教育課。

愛好者増えて大会にも熱気



レディースバドミントン大会

狛江市バドミントン協会

狛江市バドミントン協会(富永茂和会長)はバドミントンを通じて健康維持と増進に役立ち、生涯スポーツとして楽しめる環境作りをめざして活動している。

昭和41年に狛江町バドミントン協会として創立、43年の狛江町体育協会発足

時に加盟、45年の市制施行に伴い現在の名称に変わった。

現在は市内の2団体が加盟、毎年4月から個人会員の入会を受け付け、例年約50人が登録する。

6月に狛江市バドミントン大会(会長杯)、10月に狛江市バドミントン市民大会、3月に狛江市レディースバドミントン大会を開催している。このうちレディース大会は人気が高く、こ

とし3月の大会には市内外から過去最高の45団体の申し込みがあり、抽選で36団体に絞り、選手約250人が約9時間に及ぶ熱戦を繰り広げた。また、都民体育大会、東京都町村総合体育大会、都民生涯スポーツ大会の団体戦に

狛江市代表チームを送るなど、市外のチームとの交流にも力を入れている。

このほか、会員対象に月3~4回の協会練習会を開き、技術の向上を図るほか、狛江市主催の成人バドミントン教室、狛江〇くらぶ主催の青少年バドミントン教室にも協力している。

バドミントンは気軽にできるスポーツとして以前から多くの人に親しまれてきたが、最近ではさらに人気が高まり、大会の参加者の増加や年齢層の広がりが見られ、競技のレベルも高まっているという。富永会長は「日本選手の活躍で注目が集まり、愛好者が増えています。こうした競技熱の高まりを持続できるよう、普及に力を入れていきたい」と話している。問い合わせ ☎3430-3797 滝川さん。



ボッチャ 松本裕子さん

夫婦でパラ出場めざす

松本裕子さん(57)は東京2020パラリンピックのボッチャ日本代表をめざして練習に励んでいる。

九州出身で脳性まひという障がいを持つ松本さんは、高校時代はバドミントンをしていましたが、20歳で股関節の手術を受けてから徐々に運動能力が低下、競技とは疎遠になった。理学療法士の仁さん(61)と出会って平成18年に結婚、狛江市岩戸北へ転居した。

7年ほど前から仁さんの勧めでボッチャを始め、「やるからには選手をめざしたい」と本格的に取り組んだ。25年には日本ボッチャ選手権大会に初出場。いさ

なり予戦を通過して本戦に出場、シード選手を破る活躍をみせた。出場するのはアシスタントが認められるBC1クラスで、仁さんがアシスタントを務め、夫婦でパラリンピック出場をめざしている。

普段は多摩地区のボッチャクラブ「東京多摩コナ」に所属、狛江市民総合体育館や調布市にある障害者スポーツセンターなどで練習するほか、ボッチャ普及のため市内の小・中学校で模範演技を披露することもある。

28年の全日本選手権で3位、翌年は8位の成績を残したが、昨年は成績が不振で、5月31日(土)~6月2日(日)に千葉県流山市で催される東日本ブロック予選会には、全日本選手権出場とパラリンピックの切符をつかむため、起死回生の気持ちで臨むという。



松本裕子さんと夫の仁さん

独特のフォームから投げる正確なボールコントロールと他の選手の性格や癖をよんだ頭脳プレーが持ち味の松本さんは「私を支えてくれるボッチャの仲間と、応援して下さる多くの市民に感謝しています。ことし1年が勝負なので、がんばってパラリンピック出場の夢を实らせたい」と話している。

